

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 14年12月

～3 四半期ぶりの増産も在庫調整圧力は残存

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

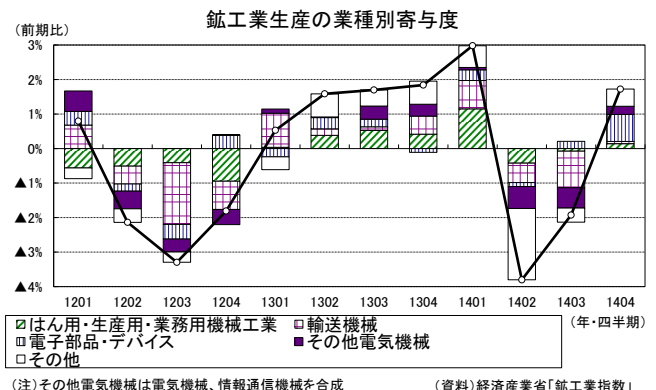
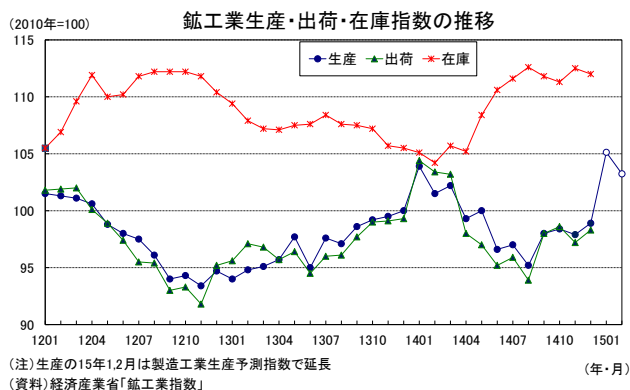
1. 10-12 月期は 3 四半期ぶりの増産

経済産業省が 1 月 30 日に公表した鉱工業指数によると、14 年 12 月の鉱工業生産指数は前月比 1.0%と 2 ヶ月ぶりに上昇したが、先月時点の予測指数の伸び（前月比 3.2%）、事前の市場予想（QUICK 集計：前月比 1.3%、当社予想は同 1.5%）をともに下回る結果となった。

出荷指数は前月比 1.1%と小幅ながら生産の伸びを上回り、在庫指数は前月比▲0.4%と 2 ヶ月ぶりに低下した。

12 月の生産を業種別に見ると、情報通信機械（前月比 10.8%）、電子部品・デバイス（同 5.2%）、輸送機械（同 1.0%）など、速報段階で公表される 15 業種中、11 業種が前月比で上昇、4 業種が低下した。

14 年 10-12 月期の生産は前期比 1.8%と 3 四半期ぶりの増加となった。業種別には、新型スマートフォンやタブレット端末向けの部品の増加などから電子部品・デバイスが前期比 9.7%の高い伸びとなったほか、設備投資の回復を反映し、はん用・生産用・業務用機械が前期比 1.0%の増加となった。また、消費税率引き上げ後の国内販売の急減による在庫積み上がりから大幅減産が続いていた輸送機械も前期比 0.4%と小幅ながら 3 四半期ぶりの増加となった。一方、住宅投資の反動減が長引いていることを受けて、金属製品（前期比▲0.9%）、窯業・土石製品（同▲0.1%）は減少が続いた。

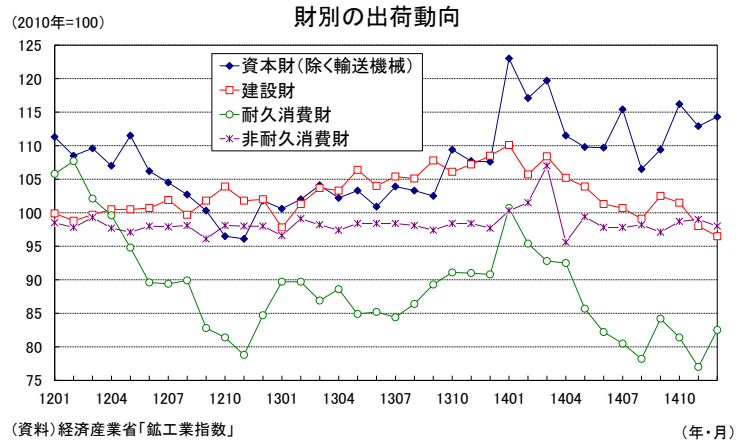


財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は 14 年 7-9 月期の前期比 0.1%の後、10-12 月期は同 3.7%と伸びが大きく高まった。一方、建設

投資の一致指標である建設財出荷は14年7-9月期の前期比▲2.6%の後、10-12月期は同▲2.1%と3四半期連続で減少したが、減少幅は若干縮小した。

GDP統計の設備投資は14年1-3月期に前期比6.2%の高い伸びとなった反動もあり、4-6月期に同▲4.7%の大幅減少となった後、7-9月期も同▲0.4%と小幅ながら減少したが、10-12月期は3四半期ぶりの増加となる可能性が高いだろう。

消費財出荷指数は14年7-9月期の前期比▲3.2%の後、10-12月期は同▲0.1%となった。非耐久消費財は前期比0.9%（7-9月期：同0.1%）と伸びを高めたが、耐久消費財が前期比▲0.9%（7-9月期：同▲6.7%）と3四半期連続で減少した。個人消費が持ち直しつつあることを示している需要側（家計調査）の統計に比べ、供給側の統計はやや低調な動きが続いている。

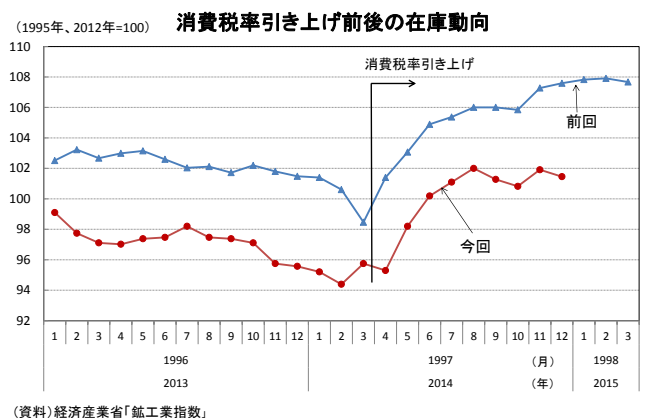
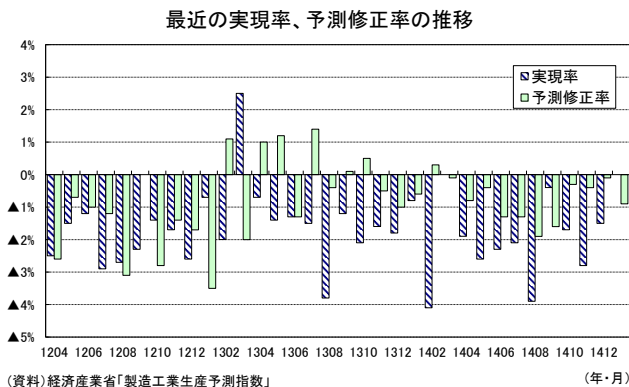


2. 在庫調整圧力が残り、生産の回復ペースは緩やかにとどまる公算

製造工業生産予測指数は、15年1月が前月比6.3%、2月が同▲1.8%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（12月）、予測修正率（1月）はそれぞれ▲1.5%、▲0.9%となり、生産計画が下方修正される傾向が続いている。

予測指数を業種別に見ると、1月はほとんどの業種が増産計画となっており、特にはん用・生産用・業務用機械（前月比19.7%）、情報通信機械（同11.2%）が二桁の高い伸びとなっている。2月は逆にほとんどの業種が前月比で減少となっているが、1、2月を均してみれば鉄鋼（1月：前月比▲0.4%→2月：同▲0.3%）以外の業種では増加基調となっている。

14年12月の生産指数を15年1月、2月の予測指数で先延ばし（3月は横這いと仮定）すると、15年1-3月期は前期比5.6%の高い伸びとなる。ただし、生産計画が大幅に下方修正される傾向が続いていること、12月末の在庫指数の水準が9月末比で0.2%の上昇となるなど在庫調整圧力が残っていることを考慮すると、生産の回復ペースは当面は緩やかなものにとどまる可能性が高い。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。